

会 議 録

会議の名称	令和5年度 第6回 飯塚市高齢社会対策推進協議会
開催日時	令和6年2月21日 13:00~13:50
開催場所	飯塚市役所 本庁5階研修室2・3
出席委員	西園会長、谷副会長、澁田委員、丸林委員、原田委員、齊藤委員、山根委員、上田委員、重岡委員、坂口委員、榎井委員、上野委員、野見山委員、樋口委員、小菅委員、高須賀委員、森下委員
欠席委員	井本委員、木山委員
会議概要	<ol style="list-style-type: none">1 開会2 議題<ol style="list-style-type: none">(1) 指定地域密着型サービス事業所の指定について【新規】(2) 指定地域密着型サービス事業所の指定について【更新】(3) 指定地域密着型サービス事業所の指定について【廃止】(4) 指定居宅介護支援事業所の指定について【新規】(5) 指定居宅介護支援事業所の指定について【更新】(6) 指定介護予防支援事業所の指定について【更新】(7) 介護予防・日常生活支援総合事業第一号指定事業所の指定について【新規】(8) 介護予防・日常生活支援総合事業第一号指定事業所の指定について【更新】(9) 令和5年度市町村保険者機能強化推進交付金及び市町村介護保険保険者努力支援交付金について3 報告事項<ol style="list-style-type: none">(1) 飯塚市の給付適正化の取組から見えた現状と課題4 その他<ol style="list-style-type: none">(1) 高齢社会対策推進協議会委員の推薦依頼について(2) 令和6年度第1回協議会の開催予定日について5 閉会

会 議 録

<p>会議資料</p>	<p>●資料 1</p> <p>(1) 指定地域密着型サービス事業所の指定について【新規】</p> <p>(2) 指定地域密着型サービス事業所の指定について【更新】</p> <p>(3) 指定地域密着型サービス事業所の指定について【廃止】</p> <p>(4) 指定居宅介護支援事業所の指定について【新規】</p> <p>(5) 指定居宅介護支援事業所の指定について【更新】</p> <p>(6) 指定介護予防支援事業所の指定について【更新】</p> <p>(7) 介護予防・日常生活支援総合事業第一号指定事業所の指定について【新規】</p> <p>(8) 介護予防・日常生活支援総合事業第一号指定事業所の指定について【更新】</p> <p>●資料 2 令和 5 年度市町村保険者機能強化推進交付金等集計結果</p> <p>●資料 3 令和 5 年度市町村保険者機能強化推進交付金等評価指標</p> <p>●資料 4 飯塚市の給付適正化の取組から見えた現状と課題</p>
<p>公開・非公開 の別</p>	<p>① 公開 2 一部公開 3 非公開</p> <p>(傍聴者 1 人)</p>
<p>その他（非公 開理由等）</p>	
<p>会議内容</p>	<p>① 議題1：指定地域密着型サービス事業所の指定について【新規】 指定申請書に基づく「(介護予防) 認知症対応型共同生活介護」の2事業所について承認。(別紙資料1)</p> <p>② 議題2：指定地域密着型サービス事業所の指定について【更新】 指定更新申請書に基づく「地域密着型通所介護」の1事業所、「(介護予防) 認知症対応型共同生活介護」の1事業所について更新を承認。(別紙資料1)</p> <p>③ 議題3：指定地域密着型サービス事業所の指定について【廃止】 廃止届出書に基づく「認知症対応型共同生活介護・介護予防認知症対応型共同生活介護」の2事業所について廃止を承認。(別紙資料1)</p> <p>④ 議題4：指定居宅介護支援事業所の指定について【新規】 指定申請に基づく「居宅介護支援」の2事業所について承認。(別紙資料1)</p> <p>⑤ 議題5：指定居宅介護支援事業所の指定について【更新】 指定更新申請書に基づく「居宅介護支援」の3事業所について更新を承認。(別紙資料1)</p>

会 議 録

⑥ 議題6：指定介護予防支援事業所の指定について【更新】

指定更新申請書に基づく「介護予防支援」の3事業所について更新を承認。（別紙資料1）

⑦ 議題7：介護予防・日常生活支援総合事業第一号指定事業所の指定について【新規】

指定申請書に基づく「第一号通所事業所（通所型現行相当）」の2事業所について承認。（別紙資料1）

⑧ 議題8：介護予防・日常生活支援総合事業第一号指定事業所の指定について【更新】

指定更新申請書に基づく「第一号訪問事業所（訪問型現行相当、訪問型サービスA1・A2）」の4事業所、「第一号訪問事業所（訪問型現行相当、訪問型サービスA1）」の3事業所、「第一号訪問事業所（訪問型現行相当）」の1事業所、「第一号通所事業所（通所型現行相当、通所型サービスA）」の9事業所、「第一号通所事業所（通所型現行相当）」の8事業所について更新を承認。（別紙資料1）

⑨ 議題9：令和5年度市町村保険者機能強化推進交付金及び市町村介護保険保険者努力支援交付金について

別紙資料2・3をもとに、交付金の概要及び飯塚市の介護予防等取組状況から配点された評価指標等について説明し、承認。

A委員：交付金の概要について説明を受け、事業所も大変だと感じた。しかし、先程の報告で、専門職による音楽リハや連携した介護予防において、楽しそうな取組みを実施していただき良かったと思う。また、配点が得られる施策はないか、引き続き考えていただくということで、利用者や事業所が気持ちよくできるように考えていただけたらありがたいと思った。

B委員：福岡県内と全国の順位がでていますが、分母はいくつか。

事務局：福岡県内は60市町村、全国は1,700余りである。同じ点の市町村がある場合は同じ順位となる。

B委員：順位がそれぞれ違うが、事業の内容によって変わるということか。

事務局：はい。

⑩ 報告事項1：飯塚市の給付適正化の取組から見えた現状と課題

別紙資料4をもとに、介護保険ケアプラン点検等業務を委託している株式会社くまもと健康支援研究所より、市の現状及び課題について報告。

C委員：この課題をもとに、今回、第9期計画の策定にあたり、協議を行ってき

会 議 録

たと思うが、特に気になることとは認定率が高いというのはもちろんであるが、高齢者の就業率が低いことである。例えば、農業が盛んであることが要因の一つでもあるかと思うが、長野県は長寿の県であり、飯塚市と比較したときの相違点は何なのか。課題は理解できたが、改善に向け、具体的にどのようにしていく必要があるのかというところが今後の問題だと思う。第9期計画への追記等はできないかと思うが、分析をされて気づかれた点や参考になることがあれば教えていただきたい。

事業者：介護給付の適正化に資する取り組みとしては、新規で介護認定を受けられる方を遅らせること、また、介護認定を受けられた方で、特に軽度の方を重度化させないということの2つの取り組みがある。今回、報告した内容では、新規に介護認定を受けられる方の認定時期が飯塚市では早いということであり、また、他の地域と比べて差があること、尚且つ平均年齢が直近の8年間で上昇していないということである。そのため、介護が必要になる方をできるだけ先送りにするための通いの場の整備や介護予防などの取り組みが必要になってくるかと思われる。また、要支援1から要介護2までの軽度の認定を受けられている方の重度化についても、他の地域と比べて少し重度化しやすい傾向にある。重度化をできるだけ防ぐための自立支援重度化防止の取り組み、特にケアマネジャーへの研修や介護事業者へのリハビリ専門職の派遣等、重度化を防止する対策についても一つの課題となるのではないかと思う。

D委員：資料の8ページの平均新規認定年齢の推移の他市町村平均について、弊社のデータベースであるとのことであったため、具体的にどこの市町村なのか伺いたい。また、先に報告を受けた資料2の飯塚市の(7)要介護状態の維持・改善の状況等の順位について県内3位であるが、それでも重度化防止は足りていないということなのか。

事業者：データについては、九州内25から30の自治体の平均になる。福岡県内においてもいくつかの自治体のデータが入っている。これは平均年齢を比較するものになるため、各地域の高齢化率というのはあまり影響しない指数になっていると思われる、これをできるだけ上昇させていくことが必要であると考えている。また、重度化防止に関する質問については、7ページで示したとおり、認定率の中で要介護3から5の割合が高いところが課題である。この要介護3から5の割合が高いということは、要介護1・2に対し、要支援1・2から介護度が重度化している割合が高いことを意味していることとなる。分析結果では、要介護3から5が多い地域というのは、要介護1から移行している地域となり、特に軽

会 議 録

度者の重度化防止が重要だということを提言する。

E委員：高齢者の就業率が飯塚市は低いということで、現在ではシルバー人材センターに依頼すると、人がいないというような返事をいただくことがある。シルバー人材センターで働こうという意欲の方が少ないことや魅力ある職場が少ないことが要因なのかと思ったが、もしそのようなことがあれば伺いたい。また、有償ボランティアは、例としてどのようなものがあるか教えていただきたい。

事業者：シルバー人材センターの会員数については、どの自治体においても伸び悩んでおり、依頼に対応することが難しい状況で、他自治体でも同じような課題を抱えているところ。一つの要因としては、シルバー人材センターの提供役務が庭木の剪定などの固定した業務が多く、特に男性寄りの業務が多いということも理由の一つではないかと思っている。生活支援のシルバー人材センターの提供役務や独居高齢者の生活支援等に提供役務を広げているシルバー人材センターは、うまく回されているのではないかと私は考えている。また、有償ボランティアについては、一人暮らしの高齢者のごみ捨てや最近では移動支援など、高齢者の生活を支える部分をヘルパーに代わって、地域の高齢者の方々が有償ボランティアとして支えているという取り組みが全国的にも広がっているところである。代表的な所では、千葉県柏市において、東京大学含め全国的にも有名な柏プロジェクトというものがあり、高齢者に短時間で少し報酬を得ていただきながら、地域の特にお困りごとを解決する介護サービスを創出している。一般企業においても、65歳以上の方を継続雇用（定年時期・再雇用の見直し）で、主に70歳まで仕事を続けるということが広がりつつあるかと思うが、飯塚市ではこのような状況であるため、一般企業の取り組みに並行して、高齢者の有償ボランティアの取り組みが非常に有効的ではないかと考えている。

F委員：16ページのアメリカの研究で社会とのつながりが多いということが健康を含め長寿につながるということで、アメリカと日本では違いはあると思うが、どのようなことが一番社会とのつながりが多いということになるのかと思った。自治会活動行えば、社会とのつながりは確かにできるが、自治会活動に参加される方が少なく、参加者を増やしていくことが自治会としての課題でもあるため、何か参考になる活動があれば伺いたい。

事業者：国が推し進めている社会とのつながりを含むということで、地域で歩いて通える公民館等で通いの場を整備していくことが国の進める取り組みである。その他、何らかの地域活動に参加をしていただくとい

会 議 録

うような有償ボランティア等の取り組みが社会とのつながりをつくることで非常に重要なことと思われる。このような取り組みを80歳になって始めるというよりも、できるだけ早期に社会とつながり、地域の方と一緒に加齢していただくというところが大きなポイントではないかと考えている。特に、今後、団塊世代の方が75歳に突入していくため、社会参加の場をどのように整備していくかというところは、全国的に取り組みを行う必要がある。eスポーツの取り組みや身近な友達で集まって活動を行えばポイントを寄与する取り組みなど、様々な取り組みが全国的に進められているところであるが、費用がかからない、地域の中で通いの場があるところが社会とのつながりをつくるうえで大きな取り組みになるかと思う。また、厚生労働省含めて取り組みが進んでいる中、社会とのつながりがない方をつなぎ直そうという取り組みで、社会的処方という考え方がある。主に医療において、例えば調剤薬局やかかりつけ医で、患者が社会とのつながりが少ないという状況であれば、地域包括支援センターに接続し、地域につなげていくことや調剤薬局やかかりつけ医で通いの場の情報を提供し、社会参加を進めることなどがある。また、医療機関、調剤薬局の中に通いの場を整備しているという事例も出てきているところであるため、様々な他機関で社会とのつながり増やすための取り組みを体系的に進めていく必要があるかと思う。

G委員：15・16ページについて、飯塚市もいきいきサロンを以前から立ち上げているが、それを見直すということも一つ大事なのではないかと思う。私もボランティアでいきいきサロン等に参加させていただいたが、マンネリ化している部分があるほか、サロンを立ち上げたが、参加者が偏り活動をやめたというところも実際に多くある。このことについても、人とのつながりの中では、根底ではないのではないかというように思う。再度、みんなで考え直す必要があるのではないかと考えている。

事業者：地域のいきいきサロンを果たしてきた役割は非常に大きなものがあると思われる。いきいきサロンの歴史が経つに従い、参加者が固定化して次の年代の方がなかなか入らないというところがある。そのため、本来、地域共生の場というかたちが好ましいと思うが、今後は地域の中で大きくつながるといっても小グループの取り組み（特定の趣味がある方の集まりなど）が増えていかなければならないのではないかと考えている。私たちが10年以上実施している取り組みで、70代の方を中心に通いの場を立ち上げたが、今ではその方々が80代半ばになられ、今でも介護保険のお世話にならずに元気に生活している。しかし、

会 議 録

10年が経過して新たに70代の方に参加を促そうとすると、年寄りの集まりだからというような意見をいただく。今後、新たな取り組みを進めていく必要があると思っている。

事務局：先ほどより居場所づくりや交流の話などが出てきていると思うが、第9期計画において、詳細は盛り込んでいないが、概要ということでお示しさせていただいている。その中で、先ほどご意見をいただいたいきいきサロン等の見直しや就業率の向上、委託業者より紹介があった有償ボランティアの育成や介護施設の助手など、様々な取り組みがあると思われるため、飯塚市が中心になってみなさんが交流できる場というところの整備や見直しを行うことに、今後、十分力を入れていかないといけないと認識している。

⑪ その他1：高齢社会対策推進協議会委員の推薦依頼について

⑫ その他2：令和6年度第1回協議会の開催予定日について

【日時】 令和6年4月24日(水)14時から

【場所】 飯塚市役所2階多目的ホール